

## 7 図書館のあゆみ

### (1) 葛飾区立図書館のあゆみ

昭和	月	
24	1	本区最初の図書館として、本田町17番地に葛飾図書館（現・立石図書館）開設。面積90㎡余、約3,000冊の蔵書で発足。入館料大人2円、子ども1円（当時ハガキ1枚2円）。
25	4	「図書館法」の制定により、入館料の徴収を廃止。
26	3	第1回レコードコンサート開始。クラシック、ポピュラーそれぞれ解説者をつけて、土曜日の夜、閉館後に開催。
28	4	団体貸出業務開始。各分野の図書を詰め合わせた10冊を1パックとし、50冊まで1か月貸し出す。
30	7	隣接の旧本田職業安定所の建物を改築して現在地（立石一丁目9番1号）に移転。
35	4	夜間開館（午後6時まで）始まる。貸出冊数を1人2冊までとし、貸出期間を10日間とする。
39	4	平日の開館時間を、午後8時までに延長。
42	4	旧新宿支所跡（新宿三丁目7番1号）に「葛飾区教育センター」を開設。センター内に教育研究所などと併設で、葛飾区立葛飾図書館開館（4月20日）。貸出方式にブラウン方式を採用（以後全館この方式となる）。 旧葛飾図書館は「葛飾区立立石図書館」に改称。
	5	葛飾図書館内に郷土資料室を開設。
	9	団体貸出業務を立石図書館から葛飾図書館へ移管（5人以上を1団体とし、1口10冊、5口まで1か月間貸出）。 読書週間中に、葛飾図書館で初めて講演会及び映画会を行う（講師は、秋山ちえ子氏「家庭と読書」ほか）。（他館は昭和54年度から）
43	5	レコードの購入開始。16ミリフィルム、映写機の貸出開始。葛飾図書館で土曜レコードコンサート開始。
	9	「葛飾図書館報」創刊。
44	6	団体貸出用配本車配備。「電話一本で本の出前」のキャッチフレーズにより貸出サービスの広域化を図る。午前中受けたリストに基づき午後配本。
	8	電子コピーによる複写サービス開始。
	9	読書週間行事として郷土史講座開催。以後、毎年2日間にわたり開催。
45	5	入館票を廃止し、入館札（プラスチック製）により閲覧室は座席指定となる。児童室は全廃。 レコードコンサートにクラシック、ポピュラー各解説者がつく（葛飾図書館）。

昭和	月	
46	4 7 11	図書の予約制度を導入。 児童向けに図書館PRのためのキャラバン実施（葛飾図書館）。 立石図書館、改築のため休館。
47	7 8	視覚障害者のための点字図書の収集、貸出開始。1人5冊まで1か月間。 夏休み期間中、レコードの館外貸出開始(葛飾図書館)。 「葛飾図書館報」の名称を、第8号から「花しょうぶ」と改名。
48	4 5	貸出冊数を2冊から3冊（児童室は4冊）に、貸出期間を2週間とする。 立石図書館改築工事竣工、1日業務再開。旧図書館の4倍以上の規模となる。
49	6	団体貸出の電話受付を廃止し、来館選定方式となる。
51	8	高校生以上を対象にレコードの貸出開始（葛飾図書館）。1回2枚、期間1週間。
52	6 10	1日、お花茶屋図書館開館（お花茶屋二丁目1番15号）。障害者用設備設置。 1日、都営住宅1階に上小松図書館開館（東新小岩三丁目12番1号）。
54	4	レコードの貸出を中学生以上とする（葛飾図書館）。
55	2	「葛飾区基本計画」策定。この計画により図書館建設及び、蔵書目標の骨子固まる（中央館1館は16万冊、地域館は6館・5万ないし7万冊）。 学級招待をはじめて実施(立石図書館)。
56	7 10	立石図書館にレコード、カセットテープの館内利用コーナー及び参考図書コーナーを設置。 1日、都営住宅1・2階に亀有図書館開館（亀有一丁目17番5号）。
57	4 6	カセットテープの貸出開始。1回2本、期間1週間(葛飾図書館)。 1日、水元保健相談所と併設して水元図書館開館（水元一丁目7番3号）。
58	3 5 9	図書の年間個人貸出冊数、6館合計で100万冊を超える。 一般室図書の貸出冊数を児童室と同様に4冊とする。期間2週間。 視覚障害者にカセットテープの貸出開始（葛飾図書館）。 連絡車による宅配。電話でも申込みを受け付ける。
59	12	園招待を初めて実施（水元図書館）。 葛飾区教育センターの改修工事始まる（出張所分室、東福祉事務所の移転を機会に、葛飾図書館の拡充整備を行う）。
60	11 12	葛飾図書館、改修工事完了。障害者用設備（対面朗読室、録音室等）設置。 区内全域をカバーする図書館のセンターとして始動する。 区立図書館の事務改善及び機械化検討委員会発足。
61	4 10	視覚障害者への対面朗読サービス開始。 区立図書館の電算化に向けて、システム構築部発足。

昭和	月	
62	4	一般事務の事務事業の改善、充実を目的として、一般室事務研究会を発足。 児童事務の事務事業の改善、充実を目的として、児童室事務研究会を発足。
	6	25日、鎌倉図書館開館（鎌倉二丁目4番5号）。区立図書館で初めてCD購入。 同日、葛飾、立石、鎌倉3館によるオンラインサービス開始。23区初の利用者用端末を設置。 図書の出借冊数を6冊までに変更。期間は従来どおり2週間。
63	6	1日、お花茶屋、上小松、亀有、水元各館の電算化により、葛飾区立図書館7館全館オンラインサービス開始。 16日、葛飾図書館に「葛飾コーナー」を設置。朝日新聞に掲載される。 (6月11日朝刊) 「葛飾コーナー」には、①葛飾区についての記述のある図書、②葛飾区の地名が載っている図書、③葛飾区在住の画家、工芸家等の作品が掲載されている図書、④葛飾区内に在住している人の著作（過去に在住した人を含む）を置く。設置時約130冊。
	7	区内の小学生に対し、学校を通じて夏休み向けパンフレット、推薦図書リスト「むぎわらぼうし」を配布、図書館利用を呼びかける。
平成	月	
元	1	区立図書館全館で、CD、カセットテープ及びレコードのコンピュータによる貸出に向けて準備を開始。 新聞の区内図書館関連記事の切抜きを開始。 区立図書館のPR活動の促進を目的とする広報委員会を発足。 資料収集について検討する資料委員会を発足。 電算システムの改善、開発に向けて電算委員会を発足。
	7	1日、区立図書館全7館の平日の児童室開室時刻を、それまでの午後1時開室から、一般室と同様、午前9時開室とする。
	8	4日、水元図書館で、小学生が「一日図書館員」を体験。

平成	月	
元	11	<p>1日、区立図書館全館で、CD、カセットテープ及びレコードのコンピュータによる館外貸出を開始（開始時の所蔵は、CD5,507枚、カセットテープ10,628巻、レコード8,356枚）。貸出点数はCD、カセットテープ合わせて1人2点まで、レコードは制限なしとした。貸出期間は、図書と同じく2週間。産業経済新聞に掲載される（10月26日朝刊）。</p> <p>CDの貸出が11月1か月間で1.4回と好調。</p> <p>同日、葛飾図書館のCD、カセットテープ及びレコードの貸出カウンターを2階の一般図書カウンターに移し統合した。これに伴い、貸出時間を午後5時から午後8時まで延長。</p>
2	1	<p>区立図書館全7館に特設コーナーを設置。テーマは葛飾「地方出版物」、立石「戦争と平和」、お花茶屋「実年」、上小松「外国語」、亀有「環境問題」、水元「ヤングレファレンス」、鎌倉「消費者」。葛飾図書館の地方出版物コーナーが読売新聞に掲載される（1月26日朝刊）。</p> <p>葛飾図書館に洋書コーナーを設置。ビジュアルなものや世界の名作、日本を紹介したものを中心に新規購入した750冊を加え、1,200冊を備える。</p>
	4	<p>図書、雑誌の貸出冊数の制限を撤廃。CDとカセットテープの貸出も4点までに拡大。</p> <p>障害者に対する区立図書館のサービスを検討する障害者サービス委員会発足。</p>
	7	<p>1日、CD、カセットテープの予約サービスを開始。受付は、自館所蔵分のみ。</p>
	10	<p>区立図書館全7館において、蔵書の収集分担を開始。</p>
	11	<p>1日、登録申込みの際に必要な生年月日を生年のみとした。</p>
3	1	<p>5日、CD、カセットテープを他の図書館から取り寄せるサービスを開始。これにより予約受付は、全館の資料が対象になると同時に、返却も任意の館にすることを可能とした。</p>
	3	<p>「郷土と天文の博物館」の開設に伴い、郷土資料室所蔵の資料を同博物館に移管することとなり、葛飾図書館内に設置されていた郷土資料室を廃止した。</p>
	6	<p>CD-ROMの収集を開始。</p>
	7	<p>ビデオソフト及びレーザーディスクの収集を開始。</p>
	11	<p>音訳ボランティア中級講座を開催。</p>

平成	月	
4	1	葛飾図書館2階の郷土資料室跡を改修し、生活、学習、スポーツ、レクリエーション等区民に役立つ各種の情報資料（主として図書、雑誌）を集めた、情報コーナーを設置。
	12	区立図書館電算システムを新規機種へ移行（第1回バージョンアップ、同時に女性センター図書資料室とのオンラインを開設し、資料の相互貸借を実施）。利用者開放端末「はてなくん」を設置。
5	3	葛飾図書館の児童室前庭を緑陰閲覧室として整備し、利用者へ開放。
	7	各館代表者で構成する図書収集方針策定委員会を発足。
	8	小学生の「一日図書館員」を全館で実施。
6	11	葛飾図書館（教育センターホール）で「図書のリサイクル市」を試行。2日間で来場者数2,973人、22,332冊（内訳：一般書14,882冊、児童書4,230冊、雑誌3,220冊）の本を提供。 地域館で、視覚障害者に対する宅配サービスを試行実施。
7	1	葛飾図書館で、ビデオテープの貸出開始。新規購入200巻を加え、928巻を備える。貸出は1人1巻で1週間。 朗読ボランティア初級養成講座を開催。
	5	図書館システムのバージョンアップに向けて電算委員会発足（現状の問題点をアンケートに集約し、各メーカー及び自治体を視察）。
8	5	朗読ボランティア中級養成講座（全10回）を開催。
	12	7日、四つ木地区図書館開館（四つ木四丁目8番1号 よつぎ小学校内）。葛飾図書館の分館とする。
9	8	葛飾図書館の2箇所目の分館として、西水元地区図書館設立工事着工。
	11	「本のリサイクル市」を亀有図書館で単独開催。1日で来場者数820人、4,500冊（内訳：一般書2,500冊、児童書1,500冊、雑誌500冊）の本を提供。
10	4	第3日曜日を開館日とする（地区図書館を除く）。 館内整理日を第4木曜日とする。 対面朗読と肢体不自由者への宅配を開始。 視覚障害者・音訳ボランティア・点訳ボランティア・図書館職員による四者懇談会を開催。
11	1	電算システム新機種へ移行（第2回バージョンアップ）。 AVマーク（AV-NOCS）の導入及び図書マーク（日販マーク）のバージョンアップ。 ISBN総合目録に加わり、相互協力を強化した。各館にPCを設置し、都立図書館蔵書目録（METLICS）が検索可能になる。
	6	1日、西水元地区図書館開館。（西水元二丁目2番8号 西水元あやめ園内）葛飾図書館の分館とする。

平成	月	
12	4	<p>四つ木・西水元地区図書館の第3日曜日を開館し、土曜・日曜の開館時間を午前10時から午後5時までとする。</p> <p>返却期限の過ぎている資料がある場合は、新たに資料の貸出は行わないこととする。</p> <p>ビデオソフトの貸出期間を2週間とする。</p> <p>葛飾図書館において、国会・都立図書館等の蔵書がインターネットで検索可能になる。</p> <p>組織改正に伴い、各館で行っていた資料の選定を、葛飾図書館における集中選定とする。</p> <p>資料の装備を委託から直営に切り替える。</p> <p>一般公募による非常勤職員を初めて採用（24名）。</p>
	9	<p>利用案内の英語版を改定。中国語版・ひらがな版を新たに作成。</p> <p>お花茶屋図書館耐震及び空調設備改修工事実施（9月20日～11月24日休館）。</p>
	11	<p>子ども読書年企画事業として、連続講演会を開催。</p> <p>「むぎわらぼうしの12年展」を葛飾図書館ロビーにて同時開催。</p> <p>子ども読書年記念リーフレット「いっぽ いっぽ」を作成。</p>
13	3	<p>教育研究所が、旧明石小学校へ移転。</p> <p>かつしかFMで、月2回（第2・第4水曜日） 図書館の放送時間を新設。</p>
	4	<p>教育研究所移転により図書館単独施設となる。教育センターの名称を変更し、葛飾図書館とする。</p> <p>地域館・地区館において、葛飾図書館所蔵のビデオテープの予約による貸出開始。</p> <p>地域館・地区館において、国会・都立図書館等の蔵書がインターネットで検索可能になる。</p> <p>葛飾区音訳ボランティア作成・校正済の録音テープを初めて都立図書館に登録。</p>
	6	<p>亀有図書館冷暖房設備改修工事実施（6月5日～7月9日休館）。</p> <p>障害者サービスの利用案内（墨字版）を作成。</p>
	7	<p>1日から葛飾図書館1階エントランスにて、検定前の小・中学校教科書の展示会を開催。</p>
	9	<p>19日、葛飾ゆかりの作家 中島梓氏の御母堂よりその著作の寄贈を受ける。</p> <p>録音図書全国総合目録への参加。5作品を登録。</p>
	10	<p>庁内レファレンスサービス事業を開始。</p> <p>葛飾ケーブルテレビで、新刊本の紹介開始。</p>
	12	<p>障害者サービスの利用案内（点字版）を作成。</p>

平成	月	
14	1	葛飾図書館3階の行政資料室を旧教育研究所資料室に移設し、行政資料・郷土史料の収集を強化し充実を図る。 利用案内のハンゲル語版を新たに作成。
	3	総合的な学習や調べ学習を支援するため、「図書館利用案内小中学校版」を作成。
	4	「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年12月公布・施行）に定められた「子ども読書の日」（4月23日）にあわせ、絵本やおすすめ本の展示会などを各館で開催。
	6	「第1期 読み聞かせボランティア講座（初級）」を開催（受講定員25名に対し、95名の応募）。
	7	中学生、高校生向きの図書リスト「Dog ears（ドッグ イアーズ）」を作成し、区立中学校全生徒に配布。
	9	葛飾図書館耐震及びエレベータ設置工事実施（9月2日～11月30日休館）。あわせて、葛飾図書館の2階にレファレンスカウンター、1階に総合カウンターを設置。 葛飾図書館にBDS（ブック・ディテクション・システム - 葛飾図書館資料無断持出検知システム）を設置。
	10	区制70周年記念行事の一つとして「シルバー図書館員」を実施。 その他、翌年3月までに区制70周年記念行事として、講演会、人形劇、葛飾昔話紙芝居会、16mmフィルム上映会、区制70年と葛飾区立図書館あゆみ展、文学で見る葛飾区展などを開催。
15	2	「第2期 読み聞かせボランティア講座（初級）」を開催（応募者が多数のため第1期を受講できなかった方々の要望に応え、第2期を開催。受講定員25名に対し105名の応募）。 「葛飾区立図書館基本計画」を策定。計画期間を10年間とし、図書館サービスの計画的な充実を図る。
	4	開館日及び開館時間を拡大する（地区図書館を除く）。祝日（1月1日を除く）も開館し、月曜日が祝日にあたる場合は、月曜日を閉館し、翌火曜日を休館とする。祝日の開館時間は、午前9時から午後5時まで。また、土曜日の開館時間を午後5時から午後8時までに延長する）。 AV資料の利用状況を見直し、レコードの収集、貸出等を休止。 各地域図書館に専用レファレンスカウンターを設置（地区図書館を除く。葛飾図書館は平成14年12月に設置）。 平成16年開館予定の青戸地区図書館の資料の収集を開始。
	6	水元図書館で初めて公共図書館・学校図書館連絡会を開催。

平成	月	
15	9	<p>9月5日、葛飾区基本計画に位置づけられた新中央図書館整備に向け、第1回葛飾区中央図書館建設検討委員会（庁内検討組織）を開催。</p> <p>9月27日から、前年の初級読み聞かせボランティア講座に続き、「第1期中級読み聞かせボランティア講座」を開催。</p> <p>葛飾図書館にパソコン利用者のためのパソコンルームを設置（8席）。</p>
16	1	<p>全館1月10日に開館。新システムによる業務開始。</p> <p>10日、葛飾区立図書館ホームページを開設。</p> <p>10日から、インターネットによる図書館資料の検索サービス開始。</p> <p>17日から、館内利用者開放端末からの予約受付開始。</p> <p>28日から、インターネットによる予約受付開始。</p> <p>新システムによる業務開始に伴い、これまで無制限であった貸出冊数及び予約冊数を変更。図書、雑誌の貸出冊数については、合わせて30冊まで、予約冊数については合わせて20冊までとする。AV資料については変更なし。</p> <p>リクエストの受付については、区内在住、在勤、在学及び近隣区に在住の利用者のみとする。</p> <p>葛飾図書館に持ち込みパソコン室を設置し、館内で電算機器が使用可能になる。</p>
	4	<p>1日、葛飾図書館の一部組織改正を行い、新中央図書館の計画を担当する整備担当係を新設。</p> <p>文部科学省から今までの児童サービスについての功績に対して、表彰を受ける。</p>
	5	<p>12日、青戸地区図書館開館（青戸五丁目20番6号 青戸地区センター内）葛飾図書館の分館とする。</p> <p>本年度から導入された、学校図書館支援指導員の導入に伴う、研修を図書館で実施。</p> <p>新中央図書館整備にあたり、区民が参加する「中央図書館開設懇談会」を設置。</p>
	8	<p>お花茶屋図書館で公共図書館・学校図書館連絡会を開始。</p> <p>居場所作りの一環として、会議室の利用がない時に中学生のグループ学習に開放（上小松図書館）。</p>
	10	<p>お花茶屋図書館において、ビジネス支援コーナー（Wコーナー）を設ける。</p>
	11	<p>新中央図書館整備に向けて、「新中央図書館開設にあたっての基本的な考え方」をとりまとめる。</p> <p>葛飾図書館においてDVDの貸出開始。</p> <p>葛飾図書館において、ビジネス支援コーナー（Wコーナー）を設ける。</p> <p>葛飾図書館で公共図書館・学校図書館連絡会を開始。</p>

平成	月	
16	12	1日、千葉商科大学との連携事業開始(図書館が発行した紹介状を持参した区民は千葉商科大学附属図書館の利用カードが発行される)。
17	2	上小松図書館で公共図書館・学校図書館連絡会を開始。 ブックスタート事業開始に向けた、ブックスタート準備会発足。 金町保健センター管内子育て支援機関による「子育てらんらんフェスティバル」を開催(葛飾)。
	3	利用者の登録更新期間を3年から5年に延長。 亀有図書館で公共図書館・学校図書館連絡会を開始。
	4	非常勤図書館専門員の導入(葛飾区立図書館での経験5年の者は非常勤図書館専門員として最大3年間まで雇用継続)。 ヤングアダルト向け図書館利用案内「ようこそ葛飾区の図書館へ」を作成。 区内小・中学校への図書配送サービスを開始。 図書館への来館が困難な高齢者への宅配サービスを開始。
	5	区内中学校の生徒に利用カードを配布。 葛飾区子ども読書活動推進計画の策定。 ブックスタートボランティア講習会を実施。 鎌倉図書館で公共図書館・学校図書館連絡会を開始。 パソコンを使った手づくり絵本教室開催。 「中央図書館開設懇談会」の公募委員を募集(18名応募の中7名選定)。
	6	葛飾図書館において利用者パソコンを2台設置し、インターネット・有料データベースの利用を提供する。 庁内向けに業務用新着図書リストを作成。グループウェアに掲示を始める。
	8	ブックスタート事業の開始(図書館でのブックスタートパックの配布と絵本読み)。
	12	12月28日と1月4日を開館日とする。
18	1	「葛飾区関連新聞記事検索システム」の公開を開始(インターネットでも公開)。 ホームページアクセス数100万件を超える。
	3	新中央図書館実施設計完成。 利用者アンケートの実施。
	4	葛飾図書館でカウンター業務の一部委託が始まる。 葛飾図書館のみ月曜日を開館とする。 メールレファレンス受付をホームページ上で開始。 メール督促を開始。

平成	月	
18	4	ブックスタート事業の開催場所が、各図書館から各保健所、保健センターへ変更。保健所、保健センターで実施される3・4か月健診時に実施。
	5	お花茶屋、上小松、鎌倉図書館に利用者インターネットパソコン各2台を設置し、インターネット・有料データベースの利用を提供する。 病院・施設入所者への宅配サービス開始。 点字プリンターを設置。
	6	亀有図書館において、ビジネス支援コーナー（Wコーナー）を設置。
	8	ホームページデザインをリニューアル。デザインを変更。
	9	ビジネス関連コーナーを拡充（葛飾図書館）。
	11	再開発ビル起工。 障害者サービスボランティア入門講座実施。
19	3	中央図書館開設懇談会を終了し、（仮称）図書館友の会準備会へ移行する。
	5	（仮称）図書館友の会準備会発足。
	6	立石、亀有、水元図書館に利用者インターネットパソコン各2台を設置し、インターネット・有料データベースの利用を提供する。
	8	ホームページにヤングアダルトコーナー開設。
	10	ICタグシステムの導入決定。
20	2	21年秋に稼働予定の新システムプロポーザルの公募開始。
	3	ホームページアクセス数300万件を超える。
	6	次期システムプロポーザル実施・決定。 葛飾図書館友の会設立。
	11	ICタグ貼付開始（葛飾図書館、立石図書館を除く全館、全資料）。
21	3	立石図書館が建替え工事のため、休館（22日）。 立石サービスコーナー開設（24日～平成23年6月26日）。
	4	図書マークを、ニッパンマーク（NS）からTRCマーク（TRC）に移行。
	5	葛飾区立中央図書館窓口業務プロポーザルの公募開始。
	6	「葛飾図書館さよならサイクル市」開催（約9,000冊を提供）。（21日） 葛飾図書館は縮小運営。一階部分で図書館サービスを開始。
	7	再開発ビル中央図書館部分引渡し。 中央図書館窓口業務プロポーザル業者決定（委託期間平成21年9月から24年8月）。
	9	葛飾区立図書館メールマガジン登録開始。 中央図書館を除くすべての館で新システム稼働、ICタグを使用した貸出、返却サービスを開始。各地域図書館にて自動貸出機各1台が稼働（地区図書館は除く）。 図書館ホームページデザインのリニューアル。

平成	月	
21	9	<p>We bからの未所蔵資料の予約、登録、メールマガジンを含むメールサービスを開始。</p> <p>「葛飾区視聴覚ライブラリーに関する規則」及び「16ミリフィルム等に関する規則」の廃止を文教委員会に提出。</p>
	10	<p>17日、葛飾区立中央図書館開館。23区内でワンフロアとしては最大の図書館として開設。自動貸出機、自動返却仕分機、予約資料コーナーの稼働。ユニバーサル・デザインを採用。</p> <p>中央図書館でビジネス支援サービスの一環として「ビジネス相談会」を開催。中央図書館でオリジナル図書館バッグを販売。</p> <p>葛飾図書館は新宿図書センターに名称を変更。区内図書館ストックヤードの保存庫機能と地区図書館としての機能を併設させるための準備を開始。</p>
	11	<p>図書館ホームページの「葛飾文学散歩」が稼働。</p>
22	2	<p>メールレファレンスを利用者ログイン画面からログインして確認できるように変更。</p> <p>文部科学省が立ち上げた「図書館海援隊プロジェクト（図書館による貧困・困窮者支援）」の参加を中央図書館が表明。</p>
	3	<p>平成22年度前期中央図書館ビジネス相談会の定期的開催を決定。</p> <p>16ミリフィルム及び16ミリ映写機の貸出を終了。</p>
	4	<p>新宿図書センターに区内図書館のストックヤードとして保存庫を開設。</p> <p>国会図書館、各大学図書館所蔵の相互貸借資料の有料化を図る。</p>
	8	<p>葛飾区ゆかりの作家「栗本薫」氏のご遺族から、直筆原稿他約297点の寄贈の申し入れ。</p> <p>中央図書館一周年記念事業として、図書館所蔵資料の葛飾コレクション図録の作成と葛飾区ゆかりの作家の資料展を開催。</p>
	9	<p>新宿図書センターの1階部分について、図書館機能と学校図書館支援機能を持たせるため、改修工事を実施（9月27日から1月4日）。</p> <p>改修工事中は2階をサービスコーナーとして縮小開設。</p>
10	<p>ヴィナシス金町（再開発ビル）一周年記念行事に図書館も参加し、ブックトークを行う。</p> <p>新立石図書館の特別資料は、かつしかエコライフプラザとの併設のため「環境」とする。</p>	

平成	月	
23	1	新宿図書センター内図書館リニューアルオープン。
	2	子ども読書活動推進計画（第二次）子ども読書活動を推進するための基本的な指針（素案）の報告、検討、確定を行う。
	3	東日本大震災発生（3月11日）。 被害状況確認のため、全図書館を17時に閉館（3月11日）。 13日の開館に向け、全図書館を休館（3月12日）。 12日の休館に伴い、資料の取置期限が3月11日、12日までの利用者の方の資料の取置期限を、15日まで延長。 全図書館で、節電協力のため閉館時間を午後5時に縮小して開館（3月13日以降）。 全図書館で「地震」の緊急特設及び特集展示を開始（3月13日）。 地震発生に伴う省エネ、節電のため、中央図書館を17時で閉館（3月14日）。 安全確保のため、各図書館の一部の行事の中止を決定（3月15日）。 利用者の方の資料の取置期限を、15日から16日に延長。 全図書館の開館時間を当面の間17時までに短縮する縮小開館を決定（3月15日）。 縮小開館に伴い、資料の取置期限が3月11日から18日までの利用者の方の取置期限を、18日まで延長。 安全確保のため、各図書館の一部の行事の中止を決定（3月18日）。 災害発生時の安全を考慮し、中央図書館及び西水元地区図書館で一部の行事の中止を決定（3月19日）。 震災の影響で葛飾区内に避難されている方の利用登録及び貸出を開始（3月23日）。 水元学び交流館に避難されている方へ、団体貸出を開始。貸出資料約50冊（3月25日）。 水元学び交流館において、読み聞かせを実施。参加者は一般5名、児童6名（3月25日）。 水元学び交流館への団体貸出を実施。貸出資料約80冊（3月30日）。
	4	2日、奥戸地区図書館開館（奥戸三丁目5番1号 南奥戸小学校内）。中央図書館の分館とする。 12日より30日まで、館内を消灯し、カウンター業務を一部縮小して夜間開館を行う。 （縮小夜間開館中のサービス：予約で取り置いている資料の貸出、受取館の変更、貸出中資料の延長、再貸出、資料の予約、資料の返却、新規の利用登録、住所・電話等の変更登録）

平成	月		
23	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央、立石図書館の夜間開館時間：午後5時から午後8時まで (中央、立石図書館は通常月曜日～土曜日は午後10時まで。日曜日・祝日は午後8時まで開館。)</li> <li>地域図書館の夜間開館時間：(日曜日・祝日を除く)午後5時から午後8時まで</li> <li>地区図書館の夜間開館時間：(金曜日のみ)午後5時から午後8時まで</li> </ul>	
	5	<p>中央図書館で、開館時間を午後8時までに短縮した上で、通常のサービスを開始(同年6月30日に開館する立石図書館も同様)。 また、地域図書館及び地区図書館で通常のサービスを開始(5月1日から9月11日まで)。</p>	
	6	<p>立石サービスコーナー閉館(27日)。 立石図書館がかつしかエコライフプラザとの複合施設として開館(30日)。 中央図書館に次いで、自動貸出機、予約資料コーナーを設置。また、新たに簡易自動返却機によるシステムを開始。 「葛飾区子ども読書活動推進計画(第二次)～子ども読書活動を推進するための基本的な指針～」を策定。おおむね5年間を計画期間とし、子どもの読書活動の推進のための充実を図る。 図書館ホームページのコンテンツ「区民がつくる葛飾百科」が稼働。</p>	
	7	<p>各地区図書館で行っていた学校への団体貸出用のパックを、新宿図書センターに設けた団体貸出エリアからの団体貸出・返却として一元化に変更した。</p>	
	8	<p>葛飾区ゆかりの作家「栗本薫」氏の寄贈直筆原稿を含め、葛飾区関連の地域資料のデジタル化のためシステム開発準備開始。</p>	
	9	<p>中央図書館及び立石図書館で、10日より通常の開館時間でサービスを開始。 新宿図書センター3階部分の閲覧席80席を開設。</p>	
	10	<p>新宿図書センター内に学校図書館支援コーナーを開設。小中教科書を含み、主に学校図書館関係者に参考になる資料を中心に収集する。</p>	
	12	<p>中央図書館にて年末年始開館の試行を開始(12月31日～1月3日)。</p>	
	24	2	<p>ホームページアクセス数1,000万件を超える。</p>
		3	<p>寄贈直筆原稿及び葛飾区関連資料のデジタル化した地域資料の納品完了。 「葛飾区立図書館利用に障害のある人へのサービス実施要綱」改正。</p>
		4	<p>図書館が所蔵する葛飾ゆかりの作家の自筆原稿を始めとする館内の地域資料を23年度にデジタル化したことを受けて、一般公開を行うためにシステム改修とデジタル地域資料の図書館ホームページコンテンツの作成に着手。この作業を目的とする図書館内検討チームを発足。</p>

平成	月	
24	4	小学校1年生を対象に「一年生事業」開始。
	5	全国視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」に加入。
	7	葛飾区立中央図書館窓口プロポーザルの公募開始。 葛飾区子ども読書活動推進計画（第二次）に基づき、「セカンドブック」事業の準備を開始。
	8	中央図書館窓口業務プロポーザル業者決定（委託期間平成24年9月～27年8月）。
	10	改修工事のため、水元図書館業務縮小開館実施（10月1日から19日まで）。業務縮小開館中は、月曜日に加え、土曜日、日曜日、祝日を休館日とし、閉館時刻を午後5時とした。また、10月20日から25日まで特別整理期間として休館した。 中央図書館開館3周年記念イベントを開催。 「葛飾区子ども読書活動推進計画（第二次）」に基づいた多文化サービスの一環として、「いろんなことばのおはなし会」を実施。年4回の定例化とした。
12	中央図書館、立石図書館で年末年始開館が開始。	
25	3	24年8月に実施した葛飾区立図書館の利用に関するアンケート結果概要版を公表。 4月1日から「かつしかデジタルライブラリー」として公開するため、館内OPAC、図書館ホームページ及び中央図書館の専用パソコンで閲覧できるよう、図書館システムへのデジタル画像約18,000点のデータ取込を実施。
	4	1日「かつしかデジタルライブラリー」の公開を、図書館ホームページ、館内OPAC、及び中央図書館に設置したデジタルライブラリー専用パソコンで開始。
	5	3歳児を持つ家庭に向けてセカンドブック事業を開始。 東京理科大学葛飾図書館と葛飾区立図書館の連携を開始。18歳以上の葛飾区民は、身分証明書と葛飾区立図書館利用カードの持参により、図書館からの紹介状不要で東京理科大学葛飾図書館の利用が可能となった。
	10	お花茶屋図書館は、10月1日から12月13日まで照明設備取替工事のため業務を縮小し開館。また、12月14日から19日まで特別整理期間として休館。
	11	東京聖栄大学との定例会を開始。
26	2	中央図書館において、新座席管理システムプロポーザル実施・決定。 中央図書館・お花茶屋図書館にて医療・健康情報講演会を初めて開催。
	3	「葛飾区立図書館の基本的な考え方（取組方針）」の素案を作成。 「第1回 葛飾区立図書館 ビブリオバトル」を中央図書館にて開催。

平成	月	
26	3	立石図書館で初めて「バリアフリー映画会」を開催。
	5	中央図書館において雑誌スポンサー制度を開始。 青戸地区図書館開館 10 周年記念イベントを開催。
	6	中央図書館で大学連携事業の一環として、初めて「東京聖栄大学の学生による食育の絵本読み聞かせ」を実施。
	7	中央図書館で、新座席管理システム稼働。 中央図書館で、国立国会図書館「デジタル化資料送信サービス」を開始 (25 日)。
	10	中央図書館 開館 5 周年 (5 年間の来館者数 5,991,920 人 5 年間の貸出資料数 5,417,468 点 (平成 26 年 8 月 31 日現在))。記念イベントを実施。 図書館のより一層の利便性の向上を図るため、新小岩駅東北広場に図書返却ポストを設置 (20 日)。
	11	東京理科大学祭に初めて参加し、「リサイクル市」を開催 (3,700 冊程度用意・来場者 1,929 人)。
	12	「葛飾区立図書館の基本的な考え方 (取組方針)」を策定。 中央図書館で初めて「バリアフリー映画会」を開催。
27	2	お花茶屋図書館内郷土資料室に常設展示「平櫛田中とかつしか」を設置。
	4	小学校 1 年生、中学校 1 年生に向けて本を手渡す「かつしかっ子ブック事業」が開始。
	6	スマートフォン版 O P A C を開設。 中央図書館の個人研究室・研究個室・個人閲覧席において、公衆無線 LAN サービスを開始。
	9	中央図書館内に「いきいきシニアコーナー」を夢と誇りあるふるさと葛飾基金を利用し、新設。
	11	「葛飾区立図書館の利用に関するアンケート」を実施。来館されない方への調査として、図書館ホームページからも実施。総数 2,620 件 (図書館内 1,657 件、ホームページ 963 件)。 「葛飾区立図書館の基本的な考え方 (取組方針)」の点字版を制作。
28	3	ボランティアによる「本の宅配サービス」に向け、説明会を実施。 26 日、こすげ地区図書館が開館。(小菅三丁目 8 番 22 号 こすげ小学校敷地内)。中央図書館の分館とする。当日の来館者数 548 人。
	4	登録情報の適正な管理のため、利用カードの有効期限を 5 年から 3 年に変更。 および区民サービスの充実から、未所蔵資料の取り寄せや、新刊購入リクエストは葛飾区在住・在勤・在学の方に変更。

平成	月	
28	6	立石図書館開館5周年。記念イベントを実施。 ボランティアによる「本の宅配サービス」を開始
	7	堀切地区センター前に図書返却ポストを設置(21日)。
	10	ホームページに読書記録、お気に入り登録を機能追加。読書手帳はダウンロード可能とした。
	12	四つ木地区図書館開館20周年。記念イベントを実施。
29	1	日本赤十字産院の移転に伴い新宿図書センター資料整理の検討を開始。
	3	青砥駅高架下公共広場、新柴又駅前に図書返却ポストを設置。(24日) ブックスタート事業、セカンドブック事業、かつしかっ子ブック事業(小学1年生)対象のお子さんに読書手帳の配布開始。
	6	第11期葛飾区社会教育委員の会議のテーマが「区民の拠り所となる図書館を目指して」となり、第1回目の会議が開催される。(16日)
	7	「ありがとう新宿図書センター休館イベント」を実施。(7月28日～9月30日) 日本赤十字産院の移転に伴い新宿図書センター内の学校図書館支援コーナーを終了。(31日)
	8	立石図書館に認知症コーナー「認知症なび」を新設。(24日～)
	9	青戸地区図書館改修工事による休館(9月2日～10月22日) 新宿図書センターに併設されていた「保存庫」を移転するため、水元図書館の改修工事と縮小開館実施。(9月26日～10月22日)
	10	葛飾赤十字産院の移転建替えに伴い新宿図書センターを休館。(1日～) 新宿図書センター休館に伴い新宿図書サービスコーナーを設置。(17日～) 水元図書館通常開館、保存庫資料の貸出開始。(27日～)
	11	「新宿図書センターさよならリサイクル市」を開催。(内訳:保育園、学校等行政施設向け11月25日～30日 69団体、約3,450冊 区民向け12月2日～4日 3,785人、約37,850冊)
	12	中央図書館に寄贈された直筆原稿、およびデジタル化した資料を提供協力した「栗本薫・中島梓傑作電子全集」(小学館)が刊行開始。
30	1	葛飾赤十字産院内への図書館設置準備開始。
	2	中央図書館の外国語資料の中に「多読コーナー」を新設。(23日～)
	4	リリオ亀有図書サービスカウンター開設(7日)。 四つ木駅前図書返却ポスト設置(23日)。
	8	中央図書館に寄贈された直筆原稿でデジタル化した資料の中から、栗本薫が中島梓名義で執筆した未発表の私小説「ラザロの旅」が発見される。
	9	鎌倉図書館、空調設備及び証明設備改修等の改修工事により休館及び縮小開館。(4日～平成31年3月22日)

平成	月	
30	11	上小松図書館、照明機器のLED化及び電気設備等の改修工事により休館及び縮小開館（11月6日～12月14日）。
31	1	第11期葛飾区社会教育委員による提言。 「区民のよりどころになる図書館を目指して」を教育長に提出。（11日）3月19日から公開。
	3	葛飾図書館新宿図書センター記念誌－葛飾区立図書館70年のあゆみ－を刊行。
令和	月	
元	5	西水元地区図書館、20周年特別イベント開催（5月24日～6月26日）。
	6	国立国会図書館「レファレンス協同データベース」参加館となる。
	7	第11期社会教育委員を基調講演の講師及びパネリスト等に迎え、「未来の図書館を考えるシンポジウム」を開催。
	10	台風19号の影響により、10月12日午前全館休館。 中央図書館10周年記念イベントを実施。 ※10年間の中央図書館来館者数11,725,393人、貸出冊数10,401,718冊（平成21年10月17日～平成31年8月31日）。
	11	お花茶屋図書館、空調工事による休館（11月11日～12月23日）。
	12	お花茶屋図書館、特別整理期間のため休館（12月24日～12月28日）。
	3	新型コロナウイルス感染症のため、縮小開館を実施（閉館時間は変わらず）。サービス内容は、予約した資料の受け取り、資料の返却のみ可能とし、管内立ち入り禁止とした。また、イベントについても中止した。
2	4	7日 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、政府が緊急事態宣言を発出したことを受け、葛飾区立図書館全館を休館。緊急事態宣言の期間は5月25日までであったが、図書館においては、システムリプレイス実施のため、5月31日まで休館。 図書館に来られない方へのサービスとして、インターネット上で本に触れることができるサイトのリンクを集め、ホームページで公開した。
	5	20日～31日までシステムリプレイス実施。
	6	1日から新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じながら通常開館。 中央図書館において、図書の郵送サービス（有料）を開始した。

令和	月	
2	7	感染症の感染対策を講じながらイベントを再開。しかしながら、接触を伴うイベントの多くは中止、または休止とせざるを得なかった。 葛飾昔ばなし研究会が制作した「葛飾昔ばなし紙芝居」の読み聞かせ動画を区公式 YouTube チャンネルにて配信。
	8	亀有図書館、空調設備工事等のため休館（8月31日～令和3年1月14日） 中学生から18歳までの方を対象に中央図書館で会議室の開放を行う。会議室のある他の図書館においても、一部利用者に対して会議室の開放を行った。
	10	ビジネスセミナー「よくわかる あなたの商売を守る特許・商標の活用法」の動画を区公式 YouTube チャンネルにて配信。
3	1	8日 新型コロナウイルス感染症の感染再拡大に伴い、政府が緊急事態宣言を発出。これを受け、中央・立石図書館を最長午後8時までの開館とし、リリオ亀有図書サービスコーナーを午後7時までの営業とした。 21日緊急事態宣言は解除されたものの、外出自粛要請が続いたため、中央・立石図書館は、最長午後9時までの開館とした。
	4	1日、にいじゅく地区図書館受け渡し。
	5	オンラインによるビジネスセミナーを5月16日、29日、6月26日（午前・午後）の全4回実施。
	6	2日、にいじゅく地区図書館開館（東京かつしか赤十字母子医療センター内）。開館初日から約1,000人の来館で好調な滑り出しとなった。
	8	23日、東京共同電子申請・届出サービス（以下、「電子申請」という。）を使用した新規登録（葛飾区立図書館オンライン利用者登録）を開始。新規登録者に対し、電子申請で利用者ID及びパスワードを配布するとともに、希望者には利用カードを郵送（区負担）。開始当初で400件以上の新規登録申請があった。
	9	1日、葛飾区立図書館電子書籍サービスを開始。区内在住・在勤・在学の方が対象。貸出、予約点数は2点まで。貸出期間は2週間（貸出期間が過ぎると自動的に資料は返却される）。電子書籍の利用には、葛飾区立図書館の利用登録（利用カードのID及びパスワード）が必要である。 青空文庫を含む約8,000冊（うち商用コンテンツは約700冊）でスタート。 サービス開始日は、貸出575件、予約489件の利用があった。

## (2) 葛飾区立図書館 システムのあゆみ

昭和	月	
60	12	区立図書館の事務改善及び機械化検討委員会発足。
61	10	区立図書館の電算化に向けて、システム構築部発足。
62	6	葛飾、立石、鎌倉3館によるオンラインサービス開始。23区初の利用者用端末を設置。 利用者用端末は、タッチ式キーボードで、かなとローマ字のオーバーレイを切り替えて使用する方式だった。
63	6	1日、お花茶屋、上小松、亀有、水元各館の電算化により、葛飾区立図書館7館全館オンラインサービス開始。
平成		
元	4	電算システムの改善、開発に向けて電算委員会を発足。
2	11	1日、登録申し込みの際に必要な生年月日を生年のみとした。
4	12	区立図書館電算システムを新規機種へ移行。(第1回バージョンアップ)(同時に女性センター図書資料室とのオンラインを開設し、資料の相互貸借を実施) タッチパネル方式の利用者開放端末「はてなくん」を設置。 新システムでは利用者開放端末が業務系と切り離されたため業務系への負担が減少。
7	5	図書館システムのバージョンアップに向けて電算委員会発足。(現状の問題点をアンケートに集約し、各メーカー及び自治体を視察。)
11	1	電算システム新機種へ移行。(第2回バージョンアップ) ソフトは2000年対応を含め、部分開発をする。 AVマーク(AV-NOC S)の導入及び図書マーク(日販マーク)のバージョンアップ。 ISBN総合目録に加わり、相互協力を強化した。各館にPCを設置し、都立図書館蔵書目録(MET L I C S)が検索可能になる。 館指定予約リストの出力を開始。
12	4	葛飾図書館において、事務用インターネットパソコン設置。ISDN回線使用。国会・都立図書館等の蔵書がインターネットで検索可能になる。
13	4	地域館、地区館において、事務用インターネットパソコン設置。ISDN回線使用。国会・都立図書館等の蔵書がインターネットで検索可能になる。

平成	月	
14	5	図書館システムのリース満了（平成15年12月）による、新システム導入の委託事業者の選定について、プロポーザル方式により、事業者からの技術提案を募集。（7月に図書館オンラインシステム開発委託業者選定委員会において、推薦事業者を決定。） ・汎用機からクライアントサーバーへ移行 ・WebOPAC公開、メール送信機能
	9	葛飾図書館にBDS（ブック・ディレクション・システム - 葛飾図書館資料無断持ち出し検知システム）を設置。
15	12	図書館システムの入替え工事開始。 葛飾図書館にパソコン利用者のためのパソコンルームを設置。（8席） 全館のインターネットパソコンの回線をADSLに変更。
16	1	全館1月10日に開館。新システムによる業務開始。 10日、葛飾区立図書館ホームページを開設。 10日より、インターネットによる図書館資料の検索サービス開始。 17日より、館内利用者開放端末からの予約受付開始。 28日より、インターネットによる予約受付開始。 新システムによる業務開始に伴い、これまで無制限であった貸出冊数及び予約冊数を変更。図書、雑誌の貸出冊数については、合わせて30冊まで、予約冊数については合わせて20冊までとする。AV資料については変更なし。 リクエストの受付については、区内在住、在勤、在学及び近隣区に在住の利用者のみとする。 葛飾図書館に持ち込みパソコン室を設置し、館内で電算機器が使用可能になる。
	10	ホームページアクセス数が30万件を超える。
17	3	利用者の登録更新期間を3年から5年に延長。 ホームページアクセス数が50万件を超える。
	6	葛飾図書館において利用者パソコンを2台設置し、インターネット・有料データベースの利用を提供する。
18	1	葛飾区関連新聞記事検索システムの公開を開始。（インターネットでも公開。） ホームページアクセス数が100万件を超える。
	4	Eメールレファレンス受付をホームページ上で開始。 メール督促を開始。
	5	お花茶屋、上小松、鎌倉図書館に利用者インターネットパソコン各2台を設置し、インターネット・有料データベースの利用を提供。 点字プリンターを設置。
	8	ホームページデザインをリニューアル。

平成	月	
19	6	立石、亀有、水元図書館に利用者インターネットパソコン各2台を設置し、インターネット・有料データベースの利用を提供する。
	8	ホームページにヤングアダルトコーナー開設。
	10	ICタグシステムの導入決定。
20	2	21年秋に稼働予定の新システムプロポーザルの公募開始。
	3	ホームページアクセス数が300万件を超える。
	6	次期システムプロポーザル実施・決定。ICタグ、自動返却仕分機、IC予約棚、自動貸出機を検討。
	11	ICタグ貼付開始。（葛飾図書館、立石図書館を除く全館、全資料。）
21	4	図書マークを、日販マーク（NS）からTRCマーク（TRC）に移行。
	9	葛飾区立図書館メールマガジン登録開始。 中央図書館を除くすべての館で新システム稼働、ICタグを使用した貸出、返却サービスを開始。各地域図書館にて自動貸出機各1台が稼働。（地区図書館は除く。） 図書館メールアドレスの変更。 ホームページデザインをリニューアル。 Webからの未所蔵資料の予約、登録、メールマガジンを含むメールサービスを開始。
	10	17日、葛飾区立中央図書館開館。23区内でワンフロアとしては最大の図書館として開設。自動貸出機、自動返却仕分機、予約資料コーナーの稼働。ユニバーサル・デザインを採用。
	11	図書館ホームページのコンテンツ「葛飾文学散歩」が稼働。
22	2	Eメールレファレンスを利用者ログイン画面からログインして確認できるように変更。
23	1	新宿図書センター内図書館リニューアルオープン。
	3	東日本大震災発生。（3月11日）。システムは通常どおり稼働。
	6	中央図書館に次いで、自動貸出機、予約資料コーナーを設置。また、新たに簡易自動返却機によるシステムを開始。 図書館ホームページのコンテンツ「区民がつくる葛飾百科」が稼働。
24	2	ホームページアクセス数が、1,000万件を超える。
	8	男女平等推進センターの全資料にICタグを貼付。
25	3	4月1日から「かつしかデジタルライブラリー」として公開するため、館内OPAC、図書館ホームページ及び中央図書館の専用パソコンで閲覧できるよう、図書館システムへのデジタル画像約18,000点のデータ取り込みを実施。
	4	AVマークを、「日図協マーク（ライト版）」から「LCS CD-MAR C」に移行。

平成	月	
25	4	「かつしかデジタルライブラリー」の公開を、図書館ホームページ、館内OPAC、及び中央図書館に設置したデジタルライブラリー専用パソコン(4台)で開始。
	12	中央図書館において、26年夏に稼働予定の新座席管理システムに関するプロポーザルの公募開始。
26	2	中央図書館において、新座席管理システムプロポーザル実施・決定。
	5	かつしかデジタルライブラリーとして公開するため、図書館システムへ新たにデジタル画像約16,000点のデータ取り込みを実施。
	7	中央図書館において、新座席管理システム稼働。 中央図書館において、国立国会図書館「デジタル化資料送信サービス」を開始。
	10	図書館システムのリース満了(平成27年4月)による、図書館システム機器入替の作業開始。
27	5	葛飾区立図書館全館において、図書館システム機器入替を実施。 スマートフォン版OPACを開設。 中央図書館の個人閲覧席、研究個室、及びグループ研究室において、公衆無線LANサービスの提供を開始。 図書館システムへ新たに栗本薫・中島梓氏の演劇資料などデジタル画像約13,000点のデータ取り込みを実施。
28	10	「読書記録」・「お気に入り登録」機能を追加。
30	3	WebOPACにて、言語での検索機能を追加。
31	1	令和2年度6月に稼働予定の新図書館業務システムに関するプロポーザルの公募を開始。
	3	新図書館業務システム導入の構築委託業者について、プロポーザルを実施し、業者を決定。
令和	月	
元	6	中央図書館において、座席管理システム機器入替を実施。
2	5	葛飾区立図書館全館において、図書館システムリプレースを実施。 Felicaによる利用者認証を開始。 ホームページのデザインをリニューアル。 鎌倉図書館に簡易返却機を設置。 中央図書館の公衆無線LANサービスを葛飾区公衆無線LAN「katsushika_Free_Wi-Fi」に変更。
3	1	亀有図書館において、予約棚及び簡易返却機を追加。